

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 21 日現在

機関番号：33917

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370515

研究課題名(和文) 時制句のパラメーター：比較統語理論と文法獲得

研究課題名(英文) Parameters in Tense: A Comparative Syntax and Grammar Acquisition

研究代表者

村杉 恵子(斎藤恵子)(Murasugi, Keiko)

南山大学・外国語学部・教授

研究者番号：00239518

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本プロジェクトは、時制句の大人の文法と幼児の文法について、日本語と他言語を対照的に記述的・理論的に検討し、世界の多くの幼児言語に広くみられる主節不定詞現象が、時制の未指定な段階、あるいは時制句(ならびにその下の構造)が刈り取られているとする先行研究に鑑み、それが日本語などアジア言語においても見られることを提案し、その相同と相違を明らかにした。生成文法理論(ミニマリスト理論)において再分析し、その時期が、併合はできるがラベリングにおいて未指定な段階であると提案した。

研究成果は口頭発表、研究論文、ならびにより広い層の読者に向けて『日本語文法ハンドブック』として開拓社から出版した。

研究成果の概要(英文)：The project investigated the syntactic properties of tense in both Adult and Child languages in Japanese and other languages. We focussed on the Root Infinitive stage that very young children speaking European languages such as Dutch, French, and German produce at around age 2, and proposed, based on the descriptive and theoretical study, that there is a Root Infinitive Analogue stage in Japanese and some Asian languages such as Chinese, Hindi, and Korean. We argued that the mimetics and "Verb stem + ta" form are the surrogate infinitive forms in Japanese and those early verbs are associated with the properties specifically found in European Root Infinitives. Furthermore, we analyzed the intermediate stage of language acquisition under the Minimalist theory, and proposed that the Root Infinitive Stage is the stage where the merge, part of Universal Grammar, is available, though labeling is still in underconstruction.

研究分野：心理言語学

キーワード：tense truncation ATOM Child Language Root Infinitives Labeling Generative Grammar Mimetics

1. 研究開始当初の背景

本研究代表者(村杉(齋藤)恵子)は、生成文法的アプローチにより、主に日本語を母語とする幼児の対象とした独自の記述的研究に基づき、対照言語学的視点から日本語を母語とする幼児の獲得過程を分析し、普遍的特性と言語間変異の可能な範囲を定める制約の範囲について検討し、その成果を(国際)学会や学術誌に発表している。

特に時制句については、前回の科研プロジェクトにおいて、記述的研究を進めており、Childes の分析や縦断的研究をまとめている。

本プロジェクトは、前回の科研プロジェクトにおいて得られた成果を更に記述的にも理論的にも発展させるものである。

2. 研究の目的

本プロジェクトは、幼児の初期文法に関し、大人の文法を射程にいれて、時制句を中心として、統語構造が、いつ、いかに、そしてなぜ獲得されるのかに焦点をあて、併合と格、素性の観点から理論的実証的研究を行うことを目的とする。

本研究は、まず、記述的に、主節不定詞現象が、ヨーロッパ諸語の幼児言語のみならず、日本語をはじめとしたアジア諸言語においても観察されるのか否かを詳細に検討することを目的とする。

そのうえで、それらの記述を一般化し、世界の多くの幼児言語にみられる「時制を欠いているように見える主文内の動詞」(主節不定詞現象)の形式と意味に関して相同と相違について整理する。

さらに、上記の記述と一般化に基づいて、なぜ、主節不定詞現象が幼児言語にみられるのかについて、理論的に考察する。特に生成文法理論において、併合とラベリングを普遍文法の一部であると仮定するミニマリス仮説のもとで、主節不定詞現象の段階が、どのような段階として位置づけられるのか、それは言語の多様性を説明するためにどのような位置づけをもちうるのかについて分析することを最終的な目的とする。

3. 研究の方法

言語理論研究の記述的妥当性を満たすため、複数の言語における言語獲得の中間段階の文法を、文献研究、コーパス分析、ならびに独自の縦断的研究から精査し、言語間の相

同と相違について記述的に明らかにする。

その上で、一般化をたて、その記述と一般化の背景にある普遍文法について、時制句に関する特性を言語獲得と文法理論の両面から検討する。特に時制の特性を欠くと考えられている主節不定詞現象に焦点をあて、言語獲得の中間段階が何を示しうるのかについて、理論的に考察する。

それらの成果を生成文法理論の中でもミニマリス理論を検討し、そのもとで、幼児言語の中間段階の特徴について分析を試みる。普遍文法の一部であるとされる併合とラベリングの獲得がいつ、どのように、そしてなぜなされ、それは、世界の言語の大人の文法の多様性をどのように説明しうるのかについて、言語獲得から言語理論へ貢献できるところについて考察する。

4. 研究成果

本研究は、本研究以前の研究成果とあわせて、ヨーロッパ言語を中心とした獲得研究において主節不定詞現象と称される時制句の『刈り取られた』(未指定な)段階が、アジアの諸言語にみられることを、記述的理論的に論じた。

特に主節不定詞現象は、世界の幼児言語において形態的に三種類に分けることができる(不定詞、裸動詞、代理不定形)とする記述的な提案は、言語理論のみならず、類型論にも意義を担う成果であるといえる。

さらに、本研究の最終年度には、主節不定詞現象の見られる中間段階に焦点をあて、それについて生成文法理論(ミニマリス理論)の枠組で再分析を試みた。その結果、主節不定詞現象の見られる時期には、英語を母語とする幼児において、冠詞が産出されない特徴がみられる一方で、同時期にスクランプリングが見られることがあることを指摘し、その段階が、幼児言語において、併合は獲得されているものの、ラベリングについては、いまだ未指定の部分が残されている可能性を指摘した。

また、(疑似)主節不定詞として日本語において産出されると思われる擬声語・擬態語の特徴についても、詳細に分析した。擬声語・擬態語を、なぜ、幼児は自発的に、親とは異なる形式で、言語獲得の初期の段階で多用するのかについて、記述的理論的分析を試みている。さらに、この擬声語や擬態語が「する」を伴ってあらわれる大人と幼児の両方の動詞の構造についても分析を試みた。

これらの成果は、次の科研プロジェクトに

もつながるものであり、引き続き、本プロジェクトの内容を検討しつつ発展させていく予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 15 件)

村杉恵子(2016)「文構造の獲得」『日本語文法ハンドブック』開拓社 pp. 71-100.

村杉恵子(2016)「動詞と格の獲得」『日本語文法ハンドブック』開拓社 pp. 189-225.

・ Keiko Murasugi (2015)“Root Infinitive Analogues in Child Chinese and Japanese” *Chinese Syntax in a Cross-Linguistic Perspective* , Oxford University Press. pp. 375-398.

・ Keiko Murasugi (2015) “Root Infinitive Analogues in Child Japanese.” *Handbook of Japanese Psycholinguistics*. Handbooks of Japanese Language and Linguistics 9, De Gruyeter Mouton, pp.117-147.

・ Keiko Murasugi (2014) “Ne-attachment (Ne-tuke) on the Truncated Sentences” *Inquiries into Linguistic Theory and Language Acquisition. Papers offered to Adriana Belletti* , CISCL PRESS , pp.145-156.

〔学会発表〕(計 13 件)

・ Keiko Murasugi (2017) “The Structure of Mimetic Verbs.” Acqui-Lab, University of Connecticut, Department of Linguistics. U.S.A. 2017/3/23.

・ Keiko Murasugi (2017) “Root Infinitive Analogues in Asian Child Languages and the Implications for Minimalist Theory” *The first International Conference on Theoretical East Asian Psycholinguistic* , The Chinese University of Hong Kong 2017/03/10.

・ Keiko Murasugi (2016) “Mimetics as the argument-structure sprouts in child Japanese” NINJAL International Symposium 2016: Mimetics in Japanese and Other Languages of the World , 国立国語研究所 (招聘) 2016/12/17

村杉恵子 (2015) シンポジウム：言語獲得研究から見た普遍文法 日本英語学会 第33回大会 , 日本英語学会 (シンポジウム責任者、講師) 2015/11/22.

・ Keiko Murasugi (2015) “Inspiring Child

Language: 30 Years of the Analyses of Two-Word Utterances” The 30th Anniversary of National Tsing Hua Linguistics , National Tsing Hua University, Taiwan. (招聘) 2015/09/05.

・ Keiko Murasugi (2015) “Same Process-Different Views: The Development of Syntactic Structure.” CUHK linguistics seminar , The Language Acquisition Laboratory and Department , Chinese University of Hong Kong. Hong Kong. 2015/6/11.

〔図書〕(計 1 件)

村杉恵子、斎藤衛、宮本陽一、瀧田健介 (2016) 『日本語文法ハンドブック』開拓社、474p. 2016/11/19

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 件)

特になし

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

南山大学 言語学研究センター
<http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/LINGUISTICS/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

村杉恵子 (Murasugi, Keiko)

南山大学・外国語学部・教授
研究者番号：00239518

(2)研究分担者
()

研究者番号：

(3)連携研究者
()

研究者番号：

(4)研究協力者
()